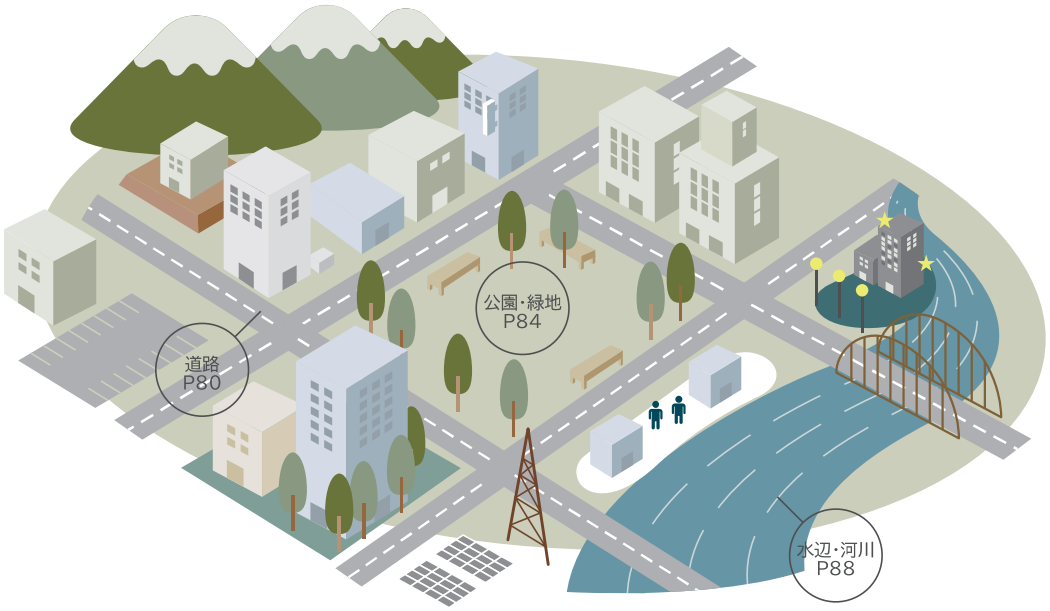
公共施設等の景観デザイン



景観デザインの基本的な考え方

公共施設等の景観デザインを考える10の基本姿勢

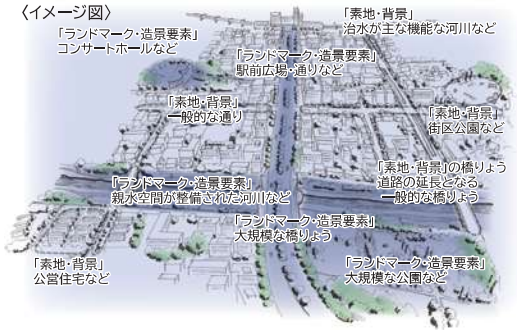
公共施設等は、景観の基調として景観の形成を先導していかなければなりません。公共施設等の景観デザインを考える上で大切な10の基本姿勢を念頭に、品格と魅力をそなえ、時間とともに成熟する「札幌」ならではの景観を先導して形成しましょう。

10の基本姿勢　景観デザインを考える

① 総合性……デザインする施設の全体とディテール等の部分が調和していること
② 連続性……土地の歴史的背景などの時間の流れ、人の営みを考慮し、周辺の景観要素と連続して考えること
③ 公共性……公共も民間も街並みをつくる要素として共に考えること
④ 地域性……その土地らしい個性があらわれていること
⑤ 普遍性……時間の経過とともに美しくなること
⑥ 環境性……土地の環境に過大な負荷をかけないこと
⑦ 安全性……安全とともに安心感を与えること
⑧ 経済性……建設費、維持管理費、廃棄時の費用などライフサイクルコストを考慮すること
⑨ 機能性……必要な機能を十分に満たしていること
⑩ デザイン性 …いつまでも親しまれる飽きのこない美しいデザインとすること

『ランドマーク・造景要素』となる公共施設等と、『素地・背景』となる公共施設等を見極め、メリハリのある景観デザインを行いましょう

公共施設等には、さまざまな用途や規模があります。
また、住宅地の近隣の道路や公園、都心の駅前通や大通公園、公営住宅とコンサートホールでは、それぞれの役割に違いがあります。多くの人が集ったり、象徴的な公共施設等は、『ランドマーク・造景要素』として捉えることができ、都市や地域のイメージをつくる大きな役割を果たします。一方で、日々の生活を支える身近な環境や、『ランドマーク・造景要素』を取り囲む周りの環境は、『素地・背景』として捉えることができます。
公共施設等のデザインを行う際は、『ランドマーク・造景要素』と『素地・背景』となる公共施設等を見極め、それぞれの役割にふさわしいデザインを行い、メリハリのある「さっぽろ」らしい魅力的な街並みをつくりましょう。



『ランドマーク・造景要素』と『素地・背景』の公共施設等の例と本章で扱う公共施設等

	ランドマーク・造景要素		素地・背景		
道路		・特に多くの人が利用する道路 ・「ランドマーク・造景要素」となる他の公共施設等と一体となり景観を形成するもの （北3条通）		一般的なもの （北1条通）	本章で解説します
公園・緑地		都市全域を利用圏域とするもの （大通公園）		地域や近隣を利用圏域とするもの （真駒内曙公園）	
河川・水辺		公園の親水空間や河川敷の運動施設など多くの人が集まるもの。ダムや水源地など （鴨々川）		・手つかずの自然のもの ・治水・利水が主な機能となるもの （月寒川）	
橋りょう		地域のランドマークとなるもの 周辺景観の中で特徴的な景観を形成するもの （水穂大橋）		道路の延長となる一般的なもの （発寒橋）	P58～参照
公共建築物		誰もが利用する公共性の高い施設。都市のシンボルとなるコンサートホール・スタジアム、地域性を表現する区役所など （札幌コンサートホールKitara）		周辺の住環境等と連続させ地域に調和させる施設。学校、児童会館、市営住宅など （月寒団地）	P10～参照

「道路」の景観デザイン

沿道の快適空間を創出する

道路には、人や車が通行するだけでなく、通風や日照の確保などさまざまな機能があります。市民の生活や観光客の移動などに深く関わっており、道路の質が都市全体の景観の印象を左右するといっても過言ではありません。
そのため、ドライバーや歩行者からの見え方だけでなく、地域住民の暮らしの場となることなどを多角的に捉えて、車道部や歩道部のデザインを検討することが大切です。
地域の景観要素と調和し、公園や河川のみどりをつなぐなど、沿道の景観形成を先導する優れたデザインとしましょう。沿道のみなさんもみどりの創出や屋外広告物を整理するなど、協働で札幌のまちの品格を高めましょう。

景観形成の土台となる道路は、景観の基盤としての役割を持つため、その多くは『素地・背景』となります。
しかし、駅前広場や主要な道路は、都市や地域のイメージを形づくる上で大きな役割を担うため、『ランドマーク・造景要素』となります。（例：多くの人が往来する道路、歴史的な建造物や大和ハウス プレミストドームなど誰もが利用する公共建築物を囲む道路、大通公園や円山公園など広域から人々が集まる公園を囲む道路など）

＜道路の『ランドマーク・造景要素』と『素地・背景』の例＞

ランドマーク・造景要素



札幌駅南口広場



大通公園周辺

素地・背景



環状通（エルムトンネル）



SEIYOしんえい四季のまち

デザイン手法

〈道路の形〉

【地形を生かした道路線形とする】

●地域の個性を演出するために、山麓地や丘陵地の地形、また、平地における微地形を考慮する。
●人々に方向感覚を与え、また愛着の持てる景観づくりを行うため、周辺の山々など、地域の景観資源の見え方を考慮する。



微地形が残された道路
（北海道大学植物園外周）

【地形を改変する際は自然に配慮する】

●自然景観や生態系の分断が最小限になるよう、切土や盛土は、地形の改変を極力抑えるとともに、やむを得ず改変する部分については、動物や植物の生態系を守るつくりとする。
●法面や擁壁面は、できる限り低く抑え、形態を分節化、分割化することで圧迫感を軽減し、緑化により自然景観になじませたり、自然が復原しやすいようゆるやかな勾配にするなど工夫する。
●トンネルを設ける場合は、地形の改変が少なく、自然景観になじむ突出型の出入口とし、入口壁面への自然景観と調和しない華美な装飾は極力避ける。



上部を緑地とし生態系が分断しないよう
配慮したトンネル（南沢トンネル）

【歩道は歩きやすい断面構成とする】

●沿道の土地利用や交通量を踏まえつつ、街路樹の配置を考慮したゆとりのある道路幅員を確保する。
●両側に店舗が連なっている路地や中通では、歩行者が楽しく歩けるよう、ゆとりある歩道幅員を確保することで賑わいのある空間をつくる。
●歩道は、段差の解消、傾斜の改善、車椅子の交差できる幅員の確保、積雪時の円滑な除雪など、ユニバーサルデザインに配慮した横断面とする。



ゆとりのある幅員の歩道（大通）

「道路」の景観デザイン

【景観に影響の少ない軽快な高架構造物とする】

●市街地の高架構造物は、街並みの連続性を保つため、掘割式（半地下）や地下式を検討し、周辺に圧迫感を与えない構造形式を選択する。
●高架構造物は 下から見上げられることが多いため、桁下空間の圧迫感を軽減し、ヒューマンスケールを超えた無機質なコンクリート構造物とならないよう、スリムに見えるデザインとする。
●横断歩道橋は、歩行者がすぐ近くを通り、かつ見上げることが多いため、橋脚、桁、階段部、桁裏、階段裏、配管などの細部のおさまりに注意しつつ、すっきりとした軽快なデザインとする。
●落雪に配慮したデザインとする。
●高架構造物や横断歩道橋などの立体構造物は、景観の阻害要因とならないよう設置場所に配慮し、道路景観の中で唐突な印象を与えないよう、周辺の街並みと調和する意匠や色彩とする。
●構造物の柱脚や階段の周囲に植栽を施すなど、周辺の景観に極力影響を与えないよう工夫する。


藻岩山の景観に配慮したアンダーパス（石山通）


すっきりとした歩道橋
（大和ハウス プレミストドーム前）

〈道路のみどり〉

【潤いある連続した景観をつくる】

●幅の広い主要幹線道路は、ボリュームのある並木を形成し、都市骨格としての景観軸を明確に表現する。
●特徴ある並木には、人々に方向性を示す役割もあるため、周辺の街路樹とは変化をつけた樹種を決定する。
●中央分離帯に植樹する場合は、安全に考慮しつつ緑化に努めるとともに、歩道側の樹木と一体的な道路景観を形成することを考慮して樹種を決定する。
●並木を計画する際は、樹木の成長によって、周辺の視点場からの眺望を妨げることがないよう、将来の景観の変化を予測しながら配置を検討する。
●樹木の成長や根茎を考えた、十分な大きさの植樹桝などとし（※P34植栽基盤について参照）、支柱は樹木が主役となるようシンプルなデザインとする。


通りの特徴をつくっている中央分離帯の街路樹
（清田通）


工業団地の景観を緩和する厚みのある植樹
（手稲工業団地）

【沿道土地利用を踏まえたみどりを配置する】

●拠点（都心、地域交流拠点、高次機能交流拠点）では、中高層建物群の街並み景観を整え、建築物の圧迫感や屋外広告物の猥雑さを軽減するため、樹種や植栽環境を踏まえつつ、高木の並木を積極的に導入し、きめ細やかな剪定など適正な管理を行う。
●拠点や複合型高度利用市街地の高密度住宅地内の生活道路では、樹種や植栽環境を踏まえつつ、歩いて楽しくなるような緑化を推進する。
●工業地・流通業務地と住宅地が接する部分については、住宅地の住環境を保全するため、厚みのある緩衝緑地帯を設ける。
●一般住宅地や近隣商店街などでは、交差点の見通しや歩行のしやすさを考慮し、道路幅員の確保とみどりが両立できる住宅地に合うコンパクトな郷土種等の導入を図る。また、愛着や親しみを感じられる景観を目指し、住民参加による植樹桝への花壇整備などを検討する。


屋外広告物景観を緩和するボリュームある街路樹（札幌駅前通）


緑陰が多い居心地の良い空間（北4条通）

【まちの顔や景観の要となる場所を樹木により演出する】

●駅前広場や水とみどりの景観軸など、まちの顔や景観の要となる場所は、豊かなみどりを創出し、品格と安らぎを感じられる空間や、緑陰のある居心地の良い空間づくりを行う。
●景観資源の位置や規模、道路線形や地形的特徴などを把握した上で、並木によるランドマークを強調するビスタの形成、シークエンスや坂道景観の演出、樹冠線の形成など、効果的な景観演出を行う。


北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）を引き立てるイチョウ並木（北3条通）

【みどりにより「さっぽろ」らしさや地域性・季節感を演出する】

●植栽環境を踏まえつつ、平岸のリンゴ並木などのように地域らしさを表す樹種や、新緑、開花、結実、紅葉、雪との調和など、みどりによる四季の変化を感じられる樹木や草花を取り入れ、地域性や季節感の演出を検討する。

●昔から地域にある巨木などの樹木は、植生の適合から地域性が表われるとともに、周辺住民から愛着のある景観として親しまれているため、道路改修などにあたっては、これらを残すことを基本とする。ただし、やむを得ず撤去する場合は、移植活用を推進する。



地域らしさを演出するリンゴ並木の街路樹（環状通）

【シンボルとなる樹木や並木などを残す】

●地域の個性を継承するため、地域のシンボルとなっている樹木や個性的な景観をつくっている並木などは、老齢化による倒木の可能性などを考慮しながら、保存について検討を行う。



四季の変化を演出する黄葉した街路樹
（東4条線）

〈歩道の舗装〉

【歩きやすい舗装材を選定する】

●舗装材は耐久性があり、積雪時にすべりにくく、誰もが歩きやすい素材を選定する。



シンプルなデザインの舗装

【場所にふさわしいデザインとする】

●安易な模様貼りや過度なデザインは避け、場所性を考えた色彩で、シンプルなデザインとする。

●商業地では賑わいを演出するデザイン、業務地では落ち着いたデザインとするなど、地域特性に合わせてデザインする。

●ランドマークとなる建物や景観資源、隣接敷地などとの関係性を考慮した舗装材や舗装パターンを検討し、エリアとして統一的な景観イメージを創出する。

●必要に応じて、車道部の舗装や道路付属物と一体的なデザインを行う。



赤れんが庁舎をイメージする舗装
（北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）周辺）

〈道路付属物〉

【電柱、電線などの地中化を推進する】

●電柱や電線が街並みの阻害要因となっているため、良好な景観を形成する必要のあるところでは、電柱や電線の地中化を推進する。

●電柱や電線の地中化により、歩道内に大きな構造物が埋設されて街路樹の根が張るスペースが奪われることのないよう、車道下に構造物を埋設することも検討する。

●電柱や電線を地中化すると、地上部の配電ボックスや信号機などの引込柱・電線が目立ちやすくなるため、周囲に溶け込むようデザインする。

●都心部では、中通が猥雑な荷捌き空間となっている場合が多いので、電柱や電線の地中化により、見通しの良いすっきりとした道路景観を形成する。



電柱・電線の地中化により山並みへの眺望が確保されている（大通北側）

【市電のセンターポール化を推進する】

●市電の架線は、街路樹の配置や眺望景観の阻害要因となっているため、良好な景観を形成する必要のあるところでは、センターポール化を推進する。



電柱・電線がなく個性的ですっきりとした中通
（さっぽろシャワー通）

【信号・標識などは一体的なデザインとする】

●信号機、標識、バス停、分電盤、街灯、柵などの道路付属物は、道路景観を一体的に構成する要素であり、景観資源や周辺の建築物、街路樹等と調和する落ち着きのある色彩やシンプルな形態、景観資源への視線を遮らない配置とし、事業者間でデザインを調整する。

●広告付バス停については、事業者間で、デザインの統一化を図るとともに、広告は、洗練された落ち着きのある配色、デザインのものにする。



一体的なデザインの道路付属物（大通南側）

「道路」の景観デザイン

【標識などを集約する】

●標識は、交通管理上の機能を確保しつつ、可能な限り数を整理・集約する。
●特に交差点部分は、信号や標識、照明などが過密になりがちなため、共架や統合により、標識などのポールの数量の適正化を図る。


シンプルな広告物付バス停(ニューヨーク)

【温かみのある夜間景観を演出する】

●街灯は洗練されたシンプルなデザインとし、住宅地では低めのポール、商業地では高めのポールとするなど、設置される場所の夜間景観を考慮した器具を設置する。
●不必要な光を抑えるとともに、光源の色は積雪寒冷地の気候を踏まえ、温かみがあり落ち着いたものとする。


落ち着いたデザインの道路付属物
(札幌市資料館前)

【ストリートファニチャー・パブリックアートは置く空間を考慮する】

●ベンチに座って見える風景、歩行者動線との関係、樹木や木陰などによる囲み感などを考慮し、人が座って落ち着く空間をデザインする。
●パブリックアートの設置は、まちの魅力を高める上で有効だが、どこにでも設置すればよいというものではなく、アートの種類や内容とともに、そのアートを置くのにふさわしい場所を選定し、周辺空間を含めて一体的にデザインする。

【構造物はシンプルなデザインとする】

●地上分電盤などは、シンプルな形状かつ目立たない色彩とし、視線を遮らないよう人の目線より低い高さとする。
●地下鉄の出入口や排気塔などは、機能性を踏まえたシンプルな形状や周辺と調和する色彩とし、洗練されたデザインとする。
●特に地下鉄出入口を大通公園など良好な眺望景観が得られる場所に設置する場合は、安全性に配慮しつつ、視線を遮らない高さに抑えることが望ましい。


ポケットパークに設けられたくつろぎ空間
(北海道立道民活動センター かでる2・7前)

〈維持管理・改修〉

【適切な維持管理を行う】

●街路樹の剪定などを適正に行い、みどりと秩序を感じる沿道景観を形成する。
●レンガやインターロッキングなどの舗装材は、アスファルト舗装に比べ劣化の悪影響が出やすく、特に、模様貼りをした舗装は除雪により大きなダメージを受ける場合が多いので、当初の設計コンセプトを尊重しながら、きめ細かな維持管理を行う。


劣化が目立つ舗装

【市民みんなの空間であるという意識を持つ】

●道路は、市民みんなが利用する施設であるという意識を持ち、落ち葉やゴミ拾いなど自分たちでできる維持管理を行い、美しさを保つよう努める。

【地域住民が愛着を持つものを保存する】

●道路の改修にあたっては、地域住民が愛着を持っているシンボル樹木や並木などを可能な限り保存し、地域の景観を継承していく。

「公園・緑地」の景観デザイン

豊かな自然のみどりを守り、新しいみどりを育て、みどりをつなげる

公園・緑地は、生態系の保全・創出や都市環境の保全の場、災害時の避難の場、運動の場など、多様な役割を担っており、自然と人との関わりの場として最も身近な公共施設です。
豊かなみどりは、生活に安らぎや潤いを与え、季節の変化を私たちに知らせてくれる貴重な空間であり、また、憩いや遊びの空間として、私たちに楽しさと喜びを与えてくれる大切な施設です。規模などに応じた市民利用の方法や公園の持つ役割を的確に捉え、自然との調和を図るなど、愛着の持てる良好な景観デザインをしましょう。

本市の公園の多くは、住区内の住民の利用を目的とする地区公園、近隣公園、街区公園などであり、このような公園は『素地・背景』となります。モエレ沼公園や中島公園などの総合公園、厚別公園などの運動公園、大通公園などの特殊公園などは、全市を利用圏域とするとともに、その役割から市域外からの利用者も多いため、都市を強く印象づける『ランドマーク・造景要素』となります。

○公園・緑地の『ランドマーク・造景要素』と『素地・背景』の例

ランドマーク・造景要素


モエレ沼公園


中島公園

素地・背景


さっぽろ大地公園（地区公園）


発寒西公園（近隣公園）

デザイン手法

〈個性あふれる公園〉

【住民の要望・意見を生かす】

●公園周辺の地域特性、利用する住民の年齢層などを調査するとともに、住民の要望や意見を踏まえ、住民に親しまれる公園づくりを行う。

【地形を生かす】

●山麓や丘陵地の公園は、場所に応じた地形を生かし、眺望や視覚的変化、周辺の自然環境を生かした公園づくりを行う。
●平地の公園では、平坦地を生かして運動や集会などができる広場等を整備するとともに、道路や民地との境界部には築山や緑地を配するなど、安全性や景観、人が憩える空間づくりを兼ねた工夫を行う。


遊びと憩いの空間を生む広場と築山
（南郷丘公園）

【地域特性を表現する】

●自然植生にあった既存樹を参考にするなど、地域特性を表現する植栽とし、地域にあったみどりを育てる。
●札幌軟石など地域に産出する素材や地域固有の景観資源と連携する素材を活用し、個性を演出する公園づくりを行う。
●公園内に位置する記念碑などの歴史的な資源については、周辺の修景を工夫し、歴史的資源の見え方をより効果的に演出する。


歴史的資源の水路を配置することで
地域性を表現した公園（真駒内曙公園）

【テーマ性を持つシンボリックな景観を創出する】

●主に、都市基幹公園の総合公園や運動公園、特殊公園などテーマ性を持った公園では、公園特性に応じて、都市や地域を強く印象づけるシンボリックな景観づくりやランドスケープデザイン、施設計画の工夫を行う。
●都心部や地域交流拠点など、人の往来の多い場所に立地する公園では、道行く人の滞留を促し、人々のアクティビティが周囲に表出することで賑わいを感じられる公園づくりを行う。

「公園・緑地」の景観デザイン

テーマ性を持つシンボリックな景観の公園・緑地


山並みをランドマークとする視線の通った
並木や水辺空間（前田森林公園）


大規模な水辺やシンボリックな建築物と
一体的なランドスケープデザイン（札幌芸術の森）


運動している様子が見え、活気が伝わる運動公園


山並みや地形を生かし、周辺の自然植生ととと一体的な
ランドスケープデザイン（滝野すずらん丘陵公園）


水辺景観や石切山の地層の景観を活かし
周囲に溶け込む施設デザイン（藻南公園）


神社に隣接し、境内から伸びる道を演出する
石畳と並木（北海道神宮周辺）

〈公園のみどり〉

【みどりにより四季を演出する】

●自然植生を考慮しつつ、花をつける樹木、紅葉・落葉する樹木、実をつける樹木、草花などによって季節感を演出する。
●視覚だけでなく、音や香りも楽しめる工夫をする。


四季の変化が感じられる植栽（天神山緑地）

【冬のみどりを確保する】

●落葉した樹木は、北国らしい冬の景観をつくるが、ともすれば単調な景観となってしまうため、風土にあった常緑樹を効果的に導入する。

【シンボルとなる樹木や並木などを保存する】

●地域住民が愛着を持てる公園とするため、地域のシンボルとなっている樹木や、個性的な景観をつくっている並木などが計画地にある場合は、可能な限り、これを保存する。


適度な見通しを確保した公園外周の緑
（希望公園）

【ボリュームのあるみどりを育成する】

●公園外周にボリュームのある樹木を育成し、地域のみどりのランドマークとなる公園をつくる。
●周辺街路から公園内の活動がわかるよう、枝下高を確保し、視線を遮らない。
●公園内の樹木は、樹木の成長による景観の変化を踏まえつつ、樹木本来の成長が可能な配置を計画する。
●公園立地や機能、施設計画に合わせて、緩衝帯となるみどり、囲まれ感をつくるみどりなど、見通しや安全性とのバランスを考慮しながら効果的なみどりを配置する。
●公園等の再整備を行う場合は、既存樹木の保存を検討した上で、樹木の成長に配慮して一定の緑量を保ち、本来の効果を発揮できるよう樹木を適切に取扱う。


生垣と高木で区切られた運動公園（希望公園）

【みどりを有効に活用する】

●場所に応じ、花壇や芝生など、みどりに触れ合うスペースを設けることで、みどりを身近に感じられる工夫をする。

【多様な生態系に配慮する】

●自然素材の活用、池などの水辺の導入、多様なみどりの創出により、生物の生息・成育空間を確保するとともに、道路や河川などとネットワークを形成し、生態系の保護を図る。
●気象条件や土壌環境に適した在来種を植栽することを基本としながら、ライラックなど札幌らしい景観要素として根付いている外来種は、その特性に配慮した上でアクセントとして使用する。


公園内の生態系を豊かにする水辺
（エドウィン・ダン記念公園）

〈公園をかたちづくるもの〉

【利用する人々も景観構成要素として捉えた施設計画とする】

●散歩やランニングをする人、ベンチでくつろぐ人、走り回る子どもたちなど、公園を利用する人々も景観要素として捉え、賑わいや親しみが感じられる景観創出につながるような施設計画とする。


公園景観を多彩にし公園内の生態系を
豊かにする池（中島公園）

【周辺との関係性を考慮した施設計画とする】

●公園越しに見える眺望や公園を背景とした景観の阻害要因とならないよう、公園の外からの見え方にも配慮した施設計画とする。
●公園に隣接する河川や道路、公共施設等との景観の一体化、連続性の確保に配慮する。


アート作品でもあり水遊び場でもある
用と景の両立（石山緑地）

【用と景の両立、日常と非日常・時間変化に配慮する】

●機能性と美しさが両立する施設デザインに配慮する。
●日常とイベントなどの非日常時、あるいは昼と夜など時間変化も考慮した景観づくりを行う。


夏の緑と冬の白に映える色彩（札幌芸術の森）

【環境と調和し景観に馴染む建築物デザインとする】

●公園内に設置する建築物は、公園全体のコンセプトに基づいてデザインする。
●公園内に設置する建築物は、自然の素材を積極的に取り入れるとともに、洗練されたシンプルなデザインとする。
●外観の色彩は、夏は木々の緑、冬は雪の白が背景になることを考慮し、お互いが引き立てあう色彩計画を行う。
●公園と建築物を一体的に捉え、外部からの見え方だけでなく、建築物内部から公園の景観を楽しめるよう計画する。
●建築物の周囲には樹木を配置するなど、建築物が公園の景観に馴染むようにするとともに、規模が大きくなる場合は、屋上緑化や壁面緑化の導入を検討する。
●観光客など他都市から多くの人が訪れるイベントでは、札幌のイメージアップにつながるよう、プレハブ建築やサインなどの仮設物は、質の高いデザインのものを使用する。


水辺の景色を楽しみながらくつろげる湖畔広場
のテーブルやベンチ（西岡公園）

【工作物は周囲と調和する品格を感じさせるデザインとする】

●フェンスなどの外周柵は、人工的な緑色と決めつけず、シンプルな形態で、周辺景観に溶け込む落ち着いた色彩を選択し、品格を感じるデザインとする。
●ベンチなどの休憩スペースは、山並みの眺望など良好な景観が得られる視点場として、また、人が落ち着く空間としてデザインする。
●噴水は夏に清涼感を感じさせる要素であり、水の動きや音が楽しめるデザインとする。また、冬期間の維持管理にも配慮した計画とする。


子どもたちが遊んでいるときの様子もデザインに
取り入れられた遊具（白石東冒険公園）

【遊具は飽きのこないデザインとする】

●遊具は、動物や植物などイメージの直喩的表現や、思いつきによる形態・色彩とせず、公園全体のコンセプトや周辺環境との調和に配慮したデザインとする。
●子どもたちが生き生きと楽しく遊んでいる姿も公園景観の一部なので、遊んでいる姿を効果的に演出するような遊具を導入する。

「公園・緑地」の景観デザイン

【美しい夜間景観を演出する外灯を設置する】

●夜間でも樹木や花などのみどりが楽しめるよう、照明を工夫する。特に、水辺やアート、シンボリックな建築物などがある場合は、対象物を効果的に浮かび上がらせるなど、光の当て方を十分に検討する。

【人にやさしい園路計画とする】

●園路は、誰もが園内の散策を楽しめるよう、適切なサインの設置、段差のないアプローチの形成、足に負担の少ない舗装の採用、高齢者等に配慮した休憩ベンチの設置など、ユニバーサルデザインに配慮した計画とする。

【駐車場は公園景観との調和を図る】

●駐車場を設ける場合は、舗装部へ緑化ブロックの導入を検討するとともに、周囲に植栽を施すなど、みどり豊かな公園景観と一体となった整備を行う。

●大規模な駐車場は、公園の玄関口として茫漠とした印象を与えないよう、分散配置を行うか、植樹や緑地帯による空間の分割化を図る。

【法面や擁壁は自然となじむつくりとする】

●法面はできる限り小さく低く抑え、形態を分節化、分割化することで圧迫感の少ないデザインとする。

●法面に植栽を施すとともにラウンディング(崩壊防止と景観を良くするために丸みをつけること)により、自然な印象をつくる。

●コンクリート擁壁を設ける場合は、石張り仕上げなど自然素材により修景するとともに、下部に植栽帯を設けたり、擁壁を蔦で覆うなど、コンクリート面を目立たないようにする。

【ふさわしい場所にアートを設置する】

●アートは、景観に効果的に働くので、設置する場所の選定と周囲の空間づくりとあわせ、その場にふさわしい質の高いアートを設置する。



スロープを設けた誰もが利用しやすい公園(こだま公園)



植栽により空間を分割した駐車場(大和ハウス プレミストドーム)



植栽を施した法面(大和ハウス プレミストドーム)



空間を引き締めているアート(中島公園)

〈安全安心〉

【植栽、外灯は安全・安心に配慮する】

●樹木の下枝を払う、生垣の高さを目線以下に抑える、生垣に適正な間隔で切れ目を入れるなど、死角を作らないよう留意する。

●外灯は、雰囲気のある夜間景観づくりに配慮しつつ、防犯上、適度な明るさを保つよう、適切に設置する。



死角をつくらず外との適度な区切りをつくる
目線より低い生垣(希望公園)

〈維持管理・改修〉

【適切な維持管理を行う】

●剪定、冬囲いなど、必要に応じて植物の維持管理を適切に行う。

●遊具などは安全性、景観の両面から劣化に配慮し、定期点検を行う。

●イベント利用時は、主催者に対し芝生の傷み防止や清掃等の原状回復を徹底させるとともに、使用後の状況を確認・指導し、良好な景観を維持する。

【市民みんなの空間であるという意識を持つ】

●公園・緑地は、市民みんなが利用する施設であるという意識を持ち、落ち葉やゴミ拾いなど、自分たちでできる維持管理を行い、美しさを保つよう努める。

【住民の愛着あるものを保存する】

●公園の改修にあたっては、住民が愛着を持っている樹木や池、建物などを可能な限り保存し、地域の景観を継承していく。

【公園景観の価値を高める維持管理を行う】

●公園利用や活用を促進し、人々が集い活動する様子が、いきいきとした公園景観を生み出すような管理運営に努める。

「水辺・河川」の景観デザイン

河川を生かし水辺とみどりが一体となった地域の潤い空間をつくる

水辺・河川は、治水や利水機能に加え、散策やジョギング、水遊び、花火大会などのイベントに幅広く活用される身近で親しみの持てる公共施設です。水と豊かなみどりが一体となった空間は、私たちにゆとりと潤いを感じさせてくれます。

同じ河川でも、地形により川幅や流れが異なり、多様な様相を見せてくれます。その変化を生かした効果的な景観を演出し、地域の景観要素や公園・道路のみどりとの連続性に配慮するなど、魅力的な景観デザインをしましょう。

また、水辺・河川は、多様な生き物の生息環境になっています。その保全にも十分配慮したデザインを行う必要があります。

手付かずの自然河川や、治水を主な機能とする河川、利水を主な機能とする用水路などの水辺は『素地・背景』となります。一方、公園内などの親水空間や運動施設などがある高水敷、ダムや水源地など、独特の景観が形成されており多くの人が集まる水辺・河川は『ランドマーク・造景要素』となります。

○水辺・河川の『ランドマーク・造景要素』と『素地・背景』の例

ランドマーク・造景要素



琴似発寒川



豊平峡ダム

素地・背景



豊平川上流



真駒内用水

デザイン手法

〈水辺・河川の形態〉

【自然豊かな河川景観をつくる】

●山麓地などでは、自然そのままの水辺・河川景観を保全する。
●広い高水敷を持つ河川は、山頂やテレビ塔の展望台など主要な視点場から俯瞰され、周辺の緑地とあわせ自然を象徴する景観軸となっていることから、河川全体の積極的な緑化を図る。



自然のままの水辺景観（豊平川）

【河川の魅力をつくる】

●市街地内の河川で多くみられる掘込河道は、法面や法肩への植栽を施し、川らしさを演出する。
●小規模河川などにおいては、治水機能に留意しつつ、多自然型河川への切り替えを推進する。
●淀みや瀬、淵の設置、また魚道の確保により、河岸や橋上からサケなどの魚が見えるような魅力的な河川景観を形成する。



多自然型に改修された河川（精進川）

〈水辺空間をかたちづくるもの〉

【堤防景観を演出する】

●連続した堤防形態を生かし、花が咲く樹木や並木などにより、季節感や地域性を演出する。
●堤防天端や堤防の法面は、周辺地盤より高く、河川空間や山並みなどを望む良好な眺望が得られるため、散策路や視点場を確保する。
●堤防の一様な連続は、単調な印象を与える傾向があることから、坂路、階段、植樹などを設け、景観に変化を与える。



手稲山を望む堤防天端を遊歩道として整備している（中の川）

「水辺・河川」の景観デザイン

【堤防は市街地のみどりとの連続性に配慮する】

●堤防は一段高くなっており、周辺市街地からの視覚的な連続性を分断するため、法面を積極的に緑化し、街路樹など、市街地から続くみどりとの連続化を図る。

【高水敷は自然植生や快適な空間形成に配慮する】

●高水敷は、昆虫や鳥類など多様な生物の生息環境に配慮した、自然植生を基本とする植栽を行う。
●高水敷が広く、平坦で茫漠とする場合は、植栽などにより空間を区分し、スポーツ施設などを設ける。その際、治水機能に留意しながら、高木を配置し、景観のアクセントを形成する。
●高水敷を公園として利用する場合、河川と接する特性を生かし、河川の水を引き込むことで、より親水性の高い公園にするとともに、河川と連続した水辺景観を形成する。
●高水敷に設置されるベンチやトイレ、四阿（あずまや）などの工作物は、治水機能に留意しつつ、石や木など自然素材の採用により、河川景観に調和させる。

【護岸は自然なつくりとし、安全性と親水性に配慮する】

●表面に凹凸のある自然石の採用や水際の水生植物の生育への配慮などにより、水中と陸上の生態系が入り混じった、豊かな生態系を育むつくりとする。
●コンクリート製の護岸は、一般に無表情なものとなりやすいため、大きな目地、骨材の工夫や表面処理などにより、自然な風合いを出すよう演出する。
●異種の既存護岸との接続部は、緑地による緩衝帯を挟んだり、既存護岸のデザイン要素を一部取り入れることなどにより、景観的にちぐはぐな印象を与えないよう、デザインに十分に配慮する。
●護岸形状は、緩傾斜護岸や階段状の護岸とし、水際へ近づきやすいつくりとする。
●護岸の素材は、周辺景観との調和を考慮し、自然石やウッドデッキなど自然素材の採用に努める。
●河川と公園が隣接するところや河川が公園内を流れる場合は、みどり豊かな景観を形成するとともに、親水空間をつくり、公園と一体的にデザインする。

【公園と一体的にデザインする】

●河川と公園が隣接するところや河川が公園内を流れる場合は、みどり豊かな景観を形成するとともに、親水空間をつくり、公園と一体的にデザインする。


河川の水を引き込むことで親水性の高い空間となっている（琴似発寒川）


石と植生を織り交ぜ生態系の保全に配慮した護岸（月寒川）


自然石と植栽により独自の雰囲気を演出している（鴨々川）


階段状のウッドデッキにより親水性が高く、水辺の景観に馴染んでいる護岸（琴似発寒川）


中島公園の一部として公園の雰囲気を高める河川（鴨々川）

〈水辺・河川のみどり〉

【河畔林を保全する】

●河畔林は、魚つき林とも呼ばれ水辺の生態系を支える上で重要な役割を持つため、治水能に留意しつつ、保全、形成を図る。

【川らしさを演出する樹木を選択する】

●河岸並木は、自然植生に無理のない樹木を選択し、川らしさを演出する。

【シンボルとなる樹木や並木などを保全する】

●一つのつながった河川景観の中で、河岸にあるシンボル橋木や特徴ある景観をつくっている並木を可能な限り保存することで、地域らしさを演出する。


河畔林が河川景観を形成すると共に豊かな生態系を育んでいる（新川）


ポプラ並木が河川の特徴ある景観となっている（創成川）

〈ダムや水源池など〉

【ダムの雄大な景観を演出する】

●豊平峡ダムなどのダムは、構造規模が非常に大きく、渓谷に設置されることから、その雄大な存在感により観光地や公園などとして整備されることが多い。公園などの整備では、ダムの景観を損なわないよう、駐車場などの公園施設のデザインや配置に配慮する。

●ダムの機能はそれのみで成立するものではなく、橋りょう、管理事務所、発電施設などが一体的に整備されるため、ダムを主体に一体的な景観デザインとする。



雄大なダムと渓谷を生かした公園(定山渓ダム)

【水源地や湿原は現在の姿を保全する】

●水源池や湿原は 、野鳥やホタル、トンボをはじめとする貴重な動植物が生息する場として、また、他にはない独特の水辺景観を形成する場として、現在の姿を保全することを最も重視する。

●自然とのふれあいや水辺景観を楽しむ空間をつくる場合は、地場産出の石や木など自然素材の活用を検討するなど、自然になじむつくりとする。



自然に馴染む木の柵やベンチ(西岡公園)

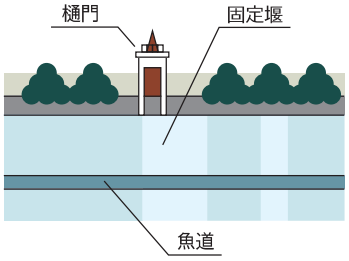
〈工作物〉

【水門、固定堰などは質の高いデザインとする】

●水門や樋門は、ともに垂直性の高い施設として、河川景観の中で特に目立つことから、門扉とともに、周辺景観に溶け込む質の高いデザインとする。

●固定堰は、景観の面では、落差工により河川景観に変化を与え、波しぶきや音が楽しめる場となるため、高水敷や護岸に、この様子を楽しめる場所を設置する。

●固定堰の断面形状を数段に分けることによって、水の表情がより豊かなものになるとともに、魚の移動を助けるやさしいつくりとなる。



【柵は水辺への眺めを妨げない形態とする】

●川の流れや水辺の様子は、人に安らぎと潤いを与えるため、柵は、歩行者の目線から水辺・河川への眺めを妨げないシンプルな形状とし、周辺景観の中で目立たない色彩・デザインとする。



水辺への眺めを妨げないシンプルな柵(鴨々川)

【標識・案内版はデザインの統一化を図り周辺景観と調和させる】

●河川標識等は、統一化を図り、シンプルなデザインで、周辺環境や隣接する道路・公園・橋りょう等に調和した色彩・デザインとし、橋詰や堰、支流合流部など、景観上影響が少なく、わかりやすい位置に設置する。



河川の個性と調和したデザインの柵(鴨々川)

〈安全・安心〉

【親水性と安全・安心を両立させる】

●親水性を持つ水辺・河川については、周囲からの死角をなくして見通しを確保し、親水性と安全・安心の両立を図る。



周辺に馴染む木調の柵と
取水塔の色彩と調和するベンチ(西岡公園)

「水辺・河川」の景観デザイン

〈維持管理・改修〉

【適切な維持管理を行う】

●河川内に放棄されたゴミや上流から流下してきたゴミなどを除去し、良好な河川景観を維持する。

●雨や不法行為などで崩れた堤防の法面を補修したり、河川の流水に支障を及ぼす恐れがある樹木などがある場合は、樹木の伐採を行うなど、河川景観を守りつつ、安全上問題が生じないよう計画的な維持管理を行う。

【生態系の保全に配慮する】

●治水機能のみならず、生態系の保全に一層留意し、改修時には自然石の採用や緑化などによる整備を推し進め、より自然豊かな河川景観をつくる。

【市民みんなの空間であるという意識を持つ】

●水辺・河川は、市民みんなが利用する施設であるという意識を持ち、花などの植栽や草刈、落ち葉やゴミ拾いなど、自分たちでできる維持管理を行い、美しさを保つよう努める。

【住民の愛着のあるものを守る】

●河川の改修にあたっては、住民が愛着を持っている河畔林や淀みなど、野鳥や魚の住みかなどの生態系を守る計画とし、地域の景観を継承する。

北海道および積雪寒冷地の道路施設の色彩

北海道の道路環境・景観は、本州以南の地域や非積雪寒冷地とは大きく異なり、道路附属物等の色彩選定にあたっても独自の考え方で取組む必要があることから、「国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所」は、『「北海道の色彩ポイントブック」ー北海道および積雪寒冷地の道路施設の色彩検討の手引きー』を発行しています。この手引きにある、道路施設の色彩を考える際のポイントをご紹介します。

この手引きは、北海道の郊外部の景観や環境を念頭に作成されたもので、札幌市の市街地など、全ての場所に該当するものではありませんが、郊外部の道路施設の色彩を考える際の参考としてご紹介します。その他のエリアでの色彩を検討する際にも、本コラムの視点をヒントにしつつ、北海道独特の冬の景観や植生、空の色など、場所ごとの状況をしっかり踏まえて色彩選定していくことが重要です。

こげ茶(ダークブラウン)は北海道の環境に必ずしも適合しない。

北海道の広大で開放的な景観、冬の雪景色を考慮すると、道路まわりの構造物は空や雪などの明るい背景を背にして眺められるケースが少なくありません。そのようなケースでは、こげ茶のような暗い色は背景から際だって見えます。



ダークブラウンの標識柱が開放的な景観を損ねている事例。より太いはずの電柱よりも目立つ。





色彩シミュレーション。左の亜鉛めっき仕上げ(実物)よりも、右のこげ茶系の色彩(フォトモンタージュ)のほうが、照明柱や防護柵が目立って見える。

景観4色※では無彩色のダークグレーが優位。場合によっては亜鉛めっきも。

北海道の広大で開放的な景観、冬の雪景色を考慮すると、道路まわりの構造物は空や雪などの明るい背景を背にして眺められるケースが少なくありません。そのようなケースでは、こげ茶のような暗い色は背景から際だって見えます。

※「景観に配慮した道路附属物等ガイドライン」(国土交通省)で示す景観4色



ダークグレー
10YR3/0.2
照明柱:国道230号 定山渓

緑系のグレーという選択肢。

空や雪、遠景の山並みなど、北海道において背景となる要素には、青みよりの色彩のものが多くなります。このことを考えると、北海道の環境には、赤みよりの茶系などの色彩よりも、青や緑よりの色彩が適合すると考えられます。実際に、緑系のグレー(彩度1.0程度)が採用された優れた事例が道内で複数確認できています。



緑みのグレー(美笛グリーン)
5G4/0.8程度
高欄:国道453号



青緑みのグレー5BG5/1
照明柱:旭川市
北彩都地区クリスタル橋



暗い黄緑みのグレー 5GY3/1
照明柱標識柱:道道140号
愛別町東町付近

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 発行
『「北海道の色彩ポイントブック」ー北海道および積雪寒冷地の道路施設の色彩検討の手引きー』より